

平成 2 9 年度 県立水戸工業高等学校自己評価表

目指す学校像	◆ 明治 4 2 年の創立から工業立国日本の中堅技術者を多数輩出してきた本校の歴史と伝統を踏まえ、充実したキャリア教育・職業教育を実践し、21世紀の日本が目指す科学技術創造立国に寄与する科学技術者・技能者を育成する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
成果 就職内定率 100.0%(190/190) 進学者合格率 99.1%(116/117) (29年3月31日現在) ジュニアマイスター認証 66名 (ゴールド19名, シルバー47名 で平成27年度より17名増加 このうち4名が特別表彰) 課題 国公立大学合格者が平成27年度 より減少しており進学を意識し た学習指導体制づくりが課題	基本的な生活習慣や道徳心を高め、安全・安心のための防災教育等の推進	①信頼される社会人として、また、スペシャリストを育成するため、基本的な生活習慣や道徳心を高めることが重要である。全職員の共通理解のもと、新しく導入した制服をきちんと着用させるなど服装・頭髪指導や遅刻指導等を生活指導全般で実施する。また、生徒の命を守るため、交通事故の防止や防災教育等を推進する。	B
	わかりやすい授業の展開と、ものづくり教育(資格取得等)の推進	②創意工夫を活かし、わかりやすい授業を展開することにより、生徒一人一人の学習意欲を高める。これにより基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着から学力向上を推進させる。また、「ものづくり教育」を特色とする本校として、次代のスペシャリストを育成し、地域産業の中核を担う人材育成が急務であるため、生徒の意欲を高め資格取得を推進する。	A
	自己の可能性の拡大と、進路実現に向けたキャリア教育の推進	③組織的・継続的にキャリア教育・職業教育を推進すると共に、生徒一人一人が自己の可能性を広げ、将来の夢の実現に向けて主体的に取り組めるように支援を図る。また、個に応じた工夫・改善を行うと共に、就業体験を行うなど、生徒の意識を高め、社会に有為な人材となるよう3年間の進路指導を充実させる。	A

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科	国語	基礎学力の向上を図る	授業規律を意識し対話的な学びを目指し、また、定期的にノート・課題を確認し、指導する。	①②	A	高校3年間だけではなく、社会人になってからも生きる学びを意識した国語学習が次年度の課題である。
			考查結果などをもとに、課外授業や課題などで成績不振の生徒に個別に指導する。	②	B	
		自学自習の習慣をつける	問題集等の自習範囲を予告し、小テスト等で確認する。	②	A	
			辞書や便覧、新聞、図書館の本などの情報や知識の選択の仕方を具体的に示し、主体的な学びを実践させる。	②	A	
		進路実現のための就職、進学へのサポートをする	3年生の国語表現の授業などで進路に応じた表現指導に努める。	①③	B	
			国語科の中だけではなく担任等とも情報交換を行い、教科内で授業研究の場を設け、3年間を見据えた深い学びを目指し指導を行う。	②③	B	
教科	地歴・公民	基礎学力の向上を図る	毎時の授業においてノートをきちんととらせる。学習課題を与える。それらを2回以上提出させ、チェック、アドバイス、評価を行う。	②	A	学習達成度合いがクラスによってばらつきが出ることへの対処と成績不振者への指導方法が次年度の課題である。
		地理・歴史への興味・関心を高める	新聞記事・テレビの報道番組・高校講座等視聴覚教材・インターネットを活用する。適宜、生徒に提示する。	②	B	
		地理的な見方や考え方、歴史的思考力を培う	近現代史を中心とした世界史を学ぶことで世界史的視野の中での、日本人としての生き方を考えさせる。興味ある事柄・人物などを調べさせる。	②	B	
			作業学習や課題追求学習を通して国際社会や現在の日本の地理的認識や考え方を深める。	②	B	
教科	数学	基礎基本の定着	基礎基本の定着のため、必要に応じて小テストや復習プリントを行う。また、長期休業中には課題を与え、その確認のテストを行う。	②	A	基礎基本の徹底はもちろん、進学希望者に対するサポートを学年ごとに計画するだけで無く、3年間を見通した指導をしていくことが次年度の課題である。
			定期考查ごとに成績不振者に追試験を行い、復習をさせる。	②	A	
		授業態度の育成	授業開始前に教科書・ノートを準備するように指導する。	①	A	
			授業中の制服着用を徹底する。	①	A	
		進学へのサポート	進学課外では、国公立大や茨城高専の入試出題傾向を分析し、合格に向けての指導をする。	②	B	
			大学等の合格者に対して、大学での授業に対応できるように補習を行う。	②	B	

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科	理科	基礎学力の向上	必要に応じて（年に数回以上）生徒実験や演示実験を実施し，生徒が理解しやすい授業を展開する。	②	B	限られた授業時数の中で，生徒が主体的に取り組める演示実験や生徒実験を研究する。
			考查ごとにノートやレポートをきちんと提出するように指導する。	②	A	
		科学技術と社会問題の関連等の認知及び応用力の育成	原子力発電などをとおして，先端技術と環境の問題等を取り上げて，将来の職業をきちんと考えるきっかけを与える。	③	B	
			進学課外を実施し，進学を希望する生徒の進路実現に向けて，応用力を養う。	②③	B	
		授業態度の育成	授業を通して基本的マナーを指導する。	①	A	
			レポートや宿題を課して，学習に取り組む姿勢を養う。	①③	A	
教科	体育	自発的・自主的に取り組む選択授業の創意工夫をはかる	生徒に実態に応じた年間計画を作成する。	①	A	生徒が主体的に活動することで，生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を身につけられるようにする。
			施設設備・用具を充実させ意欲的に取り組める環境を整える。	①	A	
			保健授業と関連づけ，自らの体力を高める力を育てる。	①③	A	
		集団行動の充実をはかる	授業の前後に集団行動を行う。	③	A	
			授業の前後に挨拶・服装指導を行う。	①③	A	
		安全指導と事故防止に努める	授業の前に準備運動，出欠を取るにより健康チェックを行う。	①③	A	
授業の前後に施設設備・用具の点検を徹底する。	③		A			
教科	美術	美術を愛好し，美しいものに素直に心から感動できる感性を養う	授業で制作した作品の展示を校内で年３回程度行うとともに，全国レベルの各種コンクール・コンテストに生徒作品を年３回程度出品し上位入賞・入選を目指す。	②	B	各種コンクールへの出品は生徒の制作活動のモチベーションに繋がっているもので，今後もできるだけ多くのコンクールに向けて取り組んでいきたい。
		学校行事（文化祭，修学旅行等）と関連させながら課題に取り組ませる	特に修学旅行先に関する文化や伝統を教科と関連させながら学習させ，高校で初めて触れる油彩画の道具，用具の使い方の基礎を習得させる。	②	B	
教科	英語	基礎学力の定着	英単語の小テストを各学年，年間１０回（８回）実施し，語彙力の定着を図る。	②	A	さらに基礎学力の定着をはかるために，生徒個々の実態に応じた指導の実施が次年度の課題である。
			普段の授業の時間を大切にさせるとともに，ノート等の提出物や英単語テスト，暗唱テスト等の重要性を生徒に周知させる。	①②	A	
		基礎学力の向上	成績不振者に対して定期考查前等，指導を行い，基礎力をつけさせる。	②	A	
			自主学習の習慣をつけさせるため，適宜単語演習やワーク等の課題を出し，点検を行う。	①	B	
		指導内容の充実	A L TやI C Tを活用し，生徒が生きた英語に触れる機会を増やす。	②	B	
			担当者間での情報共有を密にし，指導の工夫・改善に努める。	②	B	
		進路実現のための学力の向上	英語表現Ⅰの授業を通して，応用的な英語力の伸長を図る。	②	B	
			課外を実施し，進路実現のための応用力を養う。	②③	A	

評価項目		具体的目標	具体的方策			評価	次年度(学期)への主な課題
教科	家庭	事故防止と安全指導に努める	実験・実習における事故防止のため管理徹底, 施設等の衛生管理の強化を図る。	①	A	B	設備の老朽化による衛生面, 安全面の改善を事務と交渉しさらに進め生徒の自立に向けたさらに必要な実習教材を導入する。
		指導方法の改善充実を図る	授業に興味・関心を高めさせるため, 指導内容を点検し, 指導方法の改善に努める。	②	B		
			学習の理解度を把握するためにプリントの工夫をし, 不十分な生徒へは補習を実施する。	②	B		
工業科	工業化学科	基本的生活習慣の確立	担任や他の教科担当者・保護者との連絡を密にし無断欠席, 遅刻, 早退をなくす。	①	B	A	さらに基礎学力の充実を図る。化学的なものの考え方を習得させる。将来の進路への意識を向上させる。
			高校生としての言葉使いやマナーを身につけさせる。	①	B		
		基礎基本の充実	日々の授業を通して基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り, 生徒一人一人の学力向上を目指す。	②	A		
			実習に対する重要性を理解させ, 欠席や公欠などで実施できなかったところを後日補習する。	②	A		
		進路への意識を高め進学・就職全員合格を目指す	様々な機会を通して進路に関する情報を提供し, 進路決定への意欲を高める。	③	A		
			面接指導を計画的に実施する。	③	A		
工業科	機械科	機械科にふさわしい進路指導の実現を目指す	授業規律を確立・維持し, 授業をしっかり受けさせる。	③	B	B	故障した実習装置が多数出ている。修理したいが, 交換部品が経年のためない。今後どのように授業を展開していくか継続して検討していく必要がある。
			高専や大学の入試傾向を把握し, 機械科としての課外を計画実施する。	③	A		
			進学や就職に対応した面接指導を行う。	③	A		
		資格取得を奨励し, 生徒の技術向上と向学心の育成を図る	機械科として目標とする資格試験を精選し試験日程に合わせた補講計画を組む。	②	A		
			年度当初に, 機械科として目標とする資格試験や試験日程等を紹介し, 生徒に目標と向上心を持たせる。	②	A		
		高校生としてのマナーを身に付けさせる	管理室への出入りや教職員への言葉遣いなどのマナーを指導する。	①	B		
			頭髪や服装の乱れを指導する。	①	B		
		本校の今後の方向性を検討する	今後の本校の在り方や機械科の実習等について話し合い, 検討する	②	C		
			機械科のカリキュラムについて検討する。	②	C		
工業科	電気科	基本的生活習慣の充実	実習始めの集合時間を厳守する。遅刻・欠席をなくす。	①	A	A	キャリア教育の意味も深め, 前年までは2年生のみだったが今年度から1年生にも企業と連携して出前授業の充実に努めることができた。また, 3年生には資格取得の目標を設定し, D D 3種の多数合格となった。
			報告書提出の期限を厳守する。	①	A		
		資格取得の推進	基礎的な資格取得及び高度な資格取得を目指す。	②	A		
			課外指導を充実させる。	②	A		
		安全教育の徹底	実習時の頭髪服装等の指導をする。	①	A		
			実習終了時の整理整頓を徹底させる。	①	A		
		選択教科の充実と個に応じた進路指導の実現	将来の進路を考えて選択出来るよう指導する。	③	A		
			進学・就職希望者に対応したきめ細かな指導を行う。	③	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
工業科	情報技術科	基礎的な生活習慣の確立	高校生としての言葉使いやマナーを身につけさせる。	①	A	生徒の多様化に伴い資格、進学指導を行ってきたが、2020年より基礎学力テストが全ての生徒に課せられるため、さらなる基礎学力の重要性が求められる。来年度は、この点を踏まえて普通教科を合わせた指導を行っていきたい。
			日常生活の行動や課題等から生徒一人一人の状態を把握する	①	A	
		学力の向上、資格取得の推進	基礎的な学力を身に着け、社会人としてふさわしい生徒に育てる。	①②	B	
			資格試験に合わせ生徒の能力にあった指導を行う。	②	A	
		進路指導の充実	生徒が目標とする進路の実現に向け個別に対応する。	③	A	
			面接指導・学力指導を中心に指導を行い実践的な能力を身につけさせる。	②③	A	
		広報活動の充実	ホームページ等で情報技術科の生徒の活動を中学校に広報する。	①②③	A	
			進学先や就職先に積極的な広報活動を行う。	③	B	
工業科	土木科	専門教科・科目に重点を置きその課程の特色を明確にする	生徒が興味を持って学習に取り組めるような教材作成に励むとともに熱意を持って授業に臨ませる。新教育内容を導入し新しい知識・技術の導入を図る。	②	B	施設設備の更新を図る。土木施工管理に関する知識および技術の重要性を認識させ、資格取得の意欲を向上させる。
		実験・実習の重視	周到な準備を心がけるとともに結果が想定以外の場合には、その原因を追及し究明させる。施設設備の充実や指導者の養成に努める。	①②	A	
		生徒の職業指導	生徒の適切な進路選択、適応のため組織的継続的な職業指導を行う。	③	A	
		建設系技能資格取得	土木施工管理技術者をはじめとする建設工事における技術者の資格取得を目指す。	②	A	
工業科	建築科	基本的な生活習慣や道徳心を高める	挨拶の習慣や高校生としての言葉遣いを身につけさせる。欠席・遅刻・早退を減らす。	①	B	基本的な生活習慣である挨拶が不十分な生徒がいるので、生活習慣の向上を図る。また、万能製図機や測量機器などの設備を定期的に点検し、大きな修繕にならないようにする。
			授業を受ける姿勢と心構えをきちんと持たせる。	①	B	
		基礎学力の定着を図り、製図、実習、課題研究などの体験学習を充実し建築技術の向上を図る	基礎学力の定着をはかるため、定期テスト・小テスト・ノート点検のほかに課外を随時実施する。資格取得の指導を積極的に実施する。	②	A	
			自主設計・基本的な実験・創作いすの製作・古寺建築模型組み立て等を通じて、建築技術の習得・ものづくりの心を磨く。	②	A	
		進路指導の充実を図る	早期より進路意識を高めさせ、面接指導などの充実を図る。	③	A	
			学年や進路指導部との連携をはかり、就職・進学内容の質的向上をはかる。	③	A	

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
校務分掌	教務部	校内の円滑な情報交換と連携	各学科，教科，校務分掌間の情報の共有化と円滑な連携を図る。	②	A	・基本的な学力の定着とより実践的な学力の向上をめざす。 ・地域，特に中学校へより多くの情報を発信し本校への理解をより深めてもらう。 ・新教育課程の検討を進める。
			学校行事の調整による円滑な実施と十分な授業時間の確保を図る。	②	A	
		積極的な学校情報の発信	学校説明会，学校公開や中学校での高校説明会などの機会を積極的に活用して，中学生，その保護者および中学校の先生方に本校の特色や魅力を理解してもらう。	②	A	
			学校案内や入学案内等の外部へ配布する資料をより工夫して，積極的に外部へのアピールを図る。	②	A	
		教育活動の活性化	より充実した教育課程へ向けて検討する。	①	A	
			欠席，遅刻，早退等の生徒情報を全員で共有し，指導の工夫を図る。	①	A	
		学習環境の整備	積極的に授業に取り組む姿勢と自ら学ぶ態度を身につけさせる。	③	A	
			備品，環境整備等の充実を図り，全職員が健康的に働きやすい環境作りに努める。	①	B	
校務分掌	生活指導部	家庭と協力して基本的生活習慣の確立に努める	あいさつ・登校指導を実施し意識の高揚をはかる	①②	A	・あいさつ運動や登校指導及び頭髪・服装指導をとおして，生徒の基本的な生活習慣の確立を目指す。 ・自転車点検や立哨指導を行うことで，生徒の交通事故防止及び自転車の乗車マナーの向上を目指す。
		盗難のない安全な環境整備に努める	自転車の鍵や教室・個人ロッカーなどの施錠の徹底を図る。 巡回を行い，鍵の確認をする。	①	A	
		身なりを整える	月1回の頭髪服装検査を行う。全職員で共通理解のもと，実施に当たる。	①②	B	
			家庭と連携しながら，指導に当たる。	①②	B	
		交通安全教育に努め事故防止を図る	自転車の安全点検，ステッカー点検を行い，事故防止を図る。	①	B	
			立哨指導を定期的に行い，自転車の安全運転の徹底を図る。	①	B	
校務分掌	進路指導部	キャリア教育の推進	各学年と協力して進路ガイダンスや道德の授業をとおしてキャリア発達を促す。	③	A	・多様な進路希望の実現に向けて求人開拓を行う。 ・進学者に対しての，合格後の学習指導の充実を図る。
			基礎学力の充実や社会人基礎力の育成に努める。	①③	B	
		就職指導の充実	企業訪問等をとおして求人開拓に努める。	③	A	
			企業情報等の提供をとおして，学力の向上や資格取得への動機付けを行う。	②③	B	
		進学指導の充実	大学・高専を目指す生徒への確かな情報の提供と，学校選択に関するアドバイスをを行う。	③	A	
			指定校枠の獲得等のため積極的に大学・専門学校訪問を行う。	③	A	
		進路情報の提供	水戸工業高校に対する理解を深めてもらうために，進路情報を積極的に中学校へ提供する。	③	A	

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
校務分掌	特別活動部	生徒会活動の充実	リーダー研修会や生徒会活動を通し、生徒の生徒会活動（本部・各種常置委員会）への参加及び意識を高める。	③	A	・日頃から部室や活動場所の整理整頓を促す。
		部活動の充実	顧問会議・生徒中央委員会などを通し、部活動を運営する上で生じてくる問題点を把握し、充実した活動ができるよう支援する	③	A	
			各部のキャプテンを中心に部室や活動場所の整理整頓を促す。（長期休業前など）	①	A	
校務分掌	厚生部	生徒の心身の健康を図る	様々な悩みを抱える生徒に対し、相談活動に努める。	①	A	特別支援を必要とする生徒が継続して支援を受けられるようにする。 環境整備。
			特別支援教育委員会と協力して、必要とする生徒が適切な支援を受けられるようにする。	③	B	
		学習および生活環境の整備を図る	校舎内外の清掃の徹底を図る。	①	B	
			在校生および進学予定者に奨学金制度の周知徹底を図り、経済面で支障が生じないようにする。	③	A	
校務分掌	学習指導部	基礎的な学力の定着と、学習意欲の向上を図る	成績不振者課外を年4回計画し、各教科担任に実施してもらう。（前期中間考査後、前期期末考査後、後期中間考査①後、後期中間考査②後）	②	A	家庭学習の定着をいかにはかるか。
			資格試験の受験日程などの情報を提供し、また資格取得の推進をする。	②	A	
		学力の向上を図り、進路指導と結びつける	進学課外の計画を立て、各教科（国、数、理、英、他）の協力を仰ぎ実施する。大学等への進学の手助けをする。夏季課外も計画・実施する。	③	A	
			外部講師による進学補習課外を計画・実施する。また、ベネッセ実力診断テストなどの外部模試を学年と連携して計画・実施する。	③	A	
		担任との連携を密にし、保護者に資格試験などの情報を提供する	学習意識調査を生徒に実施する。クラス毎の結果も提供し、担任に面談などで活用してもらう。また、資格試験の取得状況の調査結果などを担任に提供する。全職員にも提供する。	①	A	
			保護者に学習意識調査や資格試験の取得状況などの情報を伝えるために、年2回程度保護者へ配付するプリントを作成する。	①	B	

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
校務分掌	図書視聴覚部	図書館活動による基礎学力と読解力の向上	教育課程に沿った選書を行い、バランスの取れた蔵書構成にする。また、科や教科・部活動担当者と連携し、利用促進を図る。	②	A	放送委員会の外部講習会への参加、水工紹介ビデオの製作等、視聴覚面に力を入れる。会議室の整備。
			定期的な通信の発行及び、HPに掲載するなど、読書推進のための広報活動を積極的に実施する。	①②	A	
			様々な形態の授業利用に対応できる環境整備を行う。また、積極的に資料相談に乗り、生徒の学習や教員の調査研究に役立つよう務める。	②③	A	
		放送委員会・図書委員会の活性化	放送委員・図書委員共に外部の講習会・大会に参加させ、委員会の資質向上と活性化をはかる。図書委員会は、研修会運営の担当校として任務を全うする。放送委員会は、校内放送活動を意欲的に行う。	①③	A	
		視聴覚機器による教科支援と校内活動の充実	視聴覚機器の整備・点検と設備の充実、視聴覚教材のリスト更新を図るとともに、利用方法を周知し、積極的利用を促す。	①	B	
		芸術鑑賞会の成功	芸術鑑賞会の企画立案を緻密に行い、学校生活に潤いを与え文化・芸術に親しむ機会を提供し、生徒たちの情操や感性を養う。	①②	A	
		NIEの実践	NIE活動を推進し、新聞を読む生徒を増やすために多角的な活動をする。	②③	A	
校務分掌	情報システム部	校内LANの管理・運用を行う	ファイルサーバの管理・運用を適切に行う。	①	A	校務支援システムの運用に向けての準備また、移行をスムーズに行う。
			各所のPCの保守・管理、校内LANの保守・管理を適切に行う。	①	A	
		成績処理等のデータ処理を行う	成績処理を正確に行う。	①	A	
			成績処理システムの安全性の向上に努める。	①	A	
		情報発信の改善・運用を目指す	HPの充実に努め、積極的に本校からの情報発信を行う。	②	B	
			各分掌・教科からの情報発信を援助する。	①	A	
		ICT教育の援助を行う	生徒セグメントの環境整備に努める。	③	A	
			ICT教育の援助に努める。	③	A	
校務分掌	庶務部	PTA活動の充実	一般会員の活動意欲を向上させることによりPTA活動を充実させる。また、そのために合同評議会を実施する。	③	A	PTA活動の保護者主導での計画の充実。
			研修教養委員会・広報委員会・生活指導委員会活動のさらなる充実を図る。	③	B	
			「PTA後援会合同会報」を発行する。	③	A	
		PTA組織と後援会組織の連携	学校庶務・PTA役員・後援会役員の連携により、合同総会・研修旅行・文化祭応援などの行事を行う。	③	A	
			PTAと後援会の調整を図る。	③	A	

評価項目		具体的目標	具体的方策			評価	次年度(学期)への主な課題
学年	第1学年	基礎学力の向上を図る	意欲的に授業を受けることの大切さを認識させ、自学自習の習慣の確立を促す。	②	B	B	・教科担当者と連携し、生徒の学力向上に努める。 ・頭髪服装の指導や遅刻の指導などを継続的に行い、基本的生活習慣を身につけさせる。 ・学校行事、授業、面談等さまざまな機会をとおして生徒の理解に努める。 ・進路実現に向けた指導に取り組む。
			学年一斉の基礎学力テストを実施することによって、学習意欲を高めさせる。	②	B		
		専門教科の学習の充実を図る	専門教科の指導に力を入れ、資格試験などに積極的に挑戦させる。	②③	A		
			各学科の内容をしっかりと認識させ、将来の進路を考えさせる。	③	B		
		基本的生活習慣の確立を図る	集団生活の中で、規則や規律を守ることの大切さを十分認識させる。	①	B		
			家庭等との連絡を十分に行い、また個人面談等を実施、きめ細かく指導する。	①	A		
		自他を大切にし、豊かな心を育てる	LHRや「道徳」等を利用して、他人を思いやる心の育成に努める。	①	B		
			清掃やHR等を通して、物を大切にする心を育てる。	①	A		
学年	第2学年	基礎学力の向上を図る	意欲的に授業を受けることの大切さを認識させ、自学自習の習慣の確立を促す。	②	B	B	・面談及び学校生活を通して生徒理解に努め、基本的生活習慣の確立を図る。 ・生徒の進路の実現に向け進路指導に当たる。
			学年一斉の基礎学力テストを実施することによって、学習意欲を高めさせる。	②	B		
		専門教科の学習の充実を図る	専門教科の指導に力を入れ、資格試験などに積極的に挑戦させる。	②	A		
			各学科の内容をしっかりと認識させ、将来の進路を考えさせる。	②③	B		
		基本的生活習慣の確立を図る	集団生活の中で、規則や規律を守ることの大切さを十分認識させる。	①	A		
			家庭等との連絡を十分に行い、また個人面談等を実施、きめ細かく指導する。	①	A		
		進路指導の充実を図る	実力テスト、進路ガイダンス、就業体験等の様々な機会をとおして進路に対する意識の高揚を図る。	③	A		
			HRや個人面談等で進路目標の早期決定に向けての指導にあたる。	③	B		
学年	第3学年	学力の向上を図る	意欲的に授業を受けることの大切さを指導する。また自学自習の習慣の確立を促す。	②	B	A	・早期進路決定の意識は高く、就職・進学ともきちんと真剣に望んでいる。 ・進路決定後の学習・生活への意欲維持が問題である。
			進路決定の時期であることを十分に認識させ、成績向上への努力の大切さを教える。	②③	A		
		専門教科の学習を充実させる	専門教科の指導に力を入れ、資格試験などに積極的に挑戦させる。	②	A		
			就職後に役立つ技術や技能を身につけさせる。	②③	A		
		基本的生活習慣の確立を図る	集団生活の中で、規則や規律を守ることの大切さを認識させる。	①	A		
			家庭との連絡を密に図り、また個人面談等を実施して生活指導をする。	①	A		
		進路指導の徹底を図る	模擬テスト・面接・進路ガイダンス等で進路に対する意識付けをする。	③	B		
			早めに進路決定をさせ、生徒個人へのアドバイスを行う。年度当初のLHRや進路説明会をきっかけに進路意識を高める。	③	A		